

議会だより (臨時号)

訓子府町議会 平成28年 3月 1日

「町民の皆さんと議員との懇談会」を開催しました

議会活性化特別委員会が主催し、1月26日・27日に公民館と日ノ出地区ふれあいセンターを会場に「聞かせてください、皆さんの声～町民の皆さんと議員との懇談会～」を開催しました。

多くの町民の方が参加されました。懇談の様子の一部をご紹介します。

※懇談会の詳細は、議会事務局でもお気軽に閲覧できます。

1月26日(火)実施 【公民館】 21名出席

司会 (西山活性化委員長) : テーマを設けないざっくばらんな懇談会です。皆さんからのさまざまなご意見などありませんか。

◆**質疑①** : 現在の議員数は10名に減っているが、一年間で会議に出席する回数が増えていないのか、聞きたい。

回答 (上原議長) : 定数については、今の町民の数からすると、妥当な数というふうに認識するべきではないかと思えます。さらに、出役については、当然、議員数が少なくなり、それぞれの活動が増えているというのは当たり前のことなので、おっしゃるとおりですし、報酬等についても、いろいろな流れがあって、財政健全化ということで、一定の報酬減という形で進めてきましたが、今年度、27年度から報酬は戻っています。

◆**質疑②** : 将来のこと、人口の減少対策です。市町村の総合戦略というのがある、このことに対して、皆さんの責任ある回答を聞かせていただきたいと思えます。

回答 (河端議員) : 農業の後継者とかいるんなことで、若い人が訓子府に住んでもらえ

るような、また高齢者もこの町で一生安心して暮らせるような、そういうまちづくりを町としても考えていますし、私もそれが一番大きな問題だと思っています。

回答 (西森議員) : 訓子府の基幹産業である農家に対する対策をしなければいけないと私は考えています。そして、街なかで空き家も多くなって、その対策も町として考えていかなければいけないと思っていますので、そういった人口減に対して、今、手を打たなければいけないと考えています。

回答 (工藤議員) : 第一に基幹産業である農業はもちろん、付随する商工業含めて、力強い産業をどうつくって、守っていくかというところにきていると思えます。

また、安心して子どもたちを育てて、産み育てられるような社会環境をどうやってつくっていくのかということが、次に求められ、三つ目には高齢者を含めて安心して暮らしていけるまちをどうつくっていくのか、議会も町民の皆さん方と共に知恵を出し合いながら、頑張っていきたいと思えます。

回答 (須河議員) : この訓子府においても、町から外に出る、大都市へ流れていくという人口に対して、どのような歯止めをかけられるか。そのことが、訓子府がこの後の

減少率を低くしていくという点での大きな課題になると考えています。大型量販の流れなどを地方からどう変えていくか、いかに地方から中央への人の流れを止めていくか、地方に魅力ある産業をどうつくり上げていくかということの力量が非常に問われているところだと思います。

回答 (山田議員) : いかに人口減の流れを小さくするかということに力を入れるべきだと考えます。訓子府町も盛んにやっていますが、産業振興の多様な手立てを今後もしていくことが一つ。新規就農も含めてですね。もう一つは、子どもが生まれてから成人になるまで、生まれて、子育てして、義務教育を受けて、高校に入っていく、この一連の流れ、訓子府は力を入れていますが、引き続き整備をする。人口が少しでも流出するのを止め、また外から入ってくる人を増やすということが全てです。

回答 (堤議員) : 今ある環境・状況にも合い、それでいて、無理をするのではなくてこの地を生かしたものの、環境的には他町と比べた時に、今どういう状況にあるのかという判断をしながら、行政が作ってくるプランに対して、私たち議員は力の限り、できるだけ勉強をしながら、そういう状況に合ったまちづくりに貢献していければと思います。

回答 (川村議員) : 一番お金をかけなければいけないのは、若い人を呼び込むこと。そして、訓子府町に何かの生産設備ができるということ。そういうことを考えていかなければ、いけないと考えています。とにかく若い者が住んで、働くところがいっぱいあるというまちをつくるために、頑張りたいと思います。

回答 (余湖議員) : 単純に言うと、人口がだんだん減っても訓子府町がなくなるわけではないので、そこが身の丈に合った町政なのかなという気持ちも一つはあります。町

の方針に対して、議会としてまとまった力を発揮して、これからの方向性をつくっていくのが一番じゃないかと思いますし、第一にやらなければいけないことだと思います。そのためには、議員個人が町民の皆さんの意見を吸い上げて、それを議会の中で練って、議会の力をまとめたなかで進めていかなければと思います。

回答 (西山委員長) : 若者がいい結婚をしてほしいということです。そこから出発するかなと考えています。そのためにいろいろな手立ての関わりをつくっていければと思っています。



◆意見③：ケアハウスや「はるる」のような高齢者が入れる施設を早急に町として造るべきだと思います。

回答 (河端議員) : そういった需要と、身近な問題だということは、我々も十分承知していますし、早急に考えていかなければと思っています。

回答 (西山委員長) : この場で私たちが、造るというふうに答えるわけにはいきませんので、今後の質問の中で取り組んでいきたいと思っています。

◆質疑④：我が町は農業の町。今一番問題になっているTPP大筋合意について私たち農業者も議員さんも町全体として考えていかなければいけない問題だというふうに実感しているんですが、これからこの影響

がどのように出てくるのかわからない。

回答 (西森議員) : TPP大筋合意ということで、すぐに影響は出てきませんが、近い将来農家をやめざるを得ないという人が出てくるというふうに私は思っています。基幹産業の農家がいなくなれば、町の形成がだめになってくる。町民が暮らしたくても、農家に付随した産業も衰退してくれば、訓子府に居たくても居られなくなるということになる。できるだけ早い段階で、他の町村に先駆けて、何かいい方法を模索しなければいけないと思っています。

回答 (須河議員) : 訓子府として、まずは国の施策において単年度の農業予算については、恒久的な財源、予算としてしっかり掴み取っていかなければいけない。私個人の考えですが、これだけ狭い農地、環境からいけば野菜を中心とした農業に転換していかなければいけないのかなど。貨物新幹線をつくる、それを行政としても要望していく。そして、農産物を運べる空路の確保など農業インフラの整備、ものを作る技術を高める、そういうことに対して声を上げていかなければいけない時だと思います。

回答 (工藤議員) : TPPについて、大筋合意だからと言って決まったわけではなく、国会で調印も批准もしていない段階なので、「これはさせるべきではない」と、これだけはきちんとしなければいけないと思います。財政的な裏付けをもって手立てをするといっても限界がきますから、今は、批准はしないということで頑張るべきだと思います。

◆意見⑤：大型店の進出について、商売としては、良かった面と悪かった面の両方があるのが現実です。競合するところもありますし、逆に買い物がしやすくなったという点もありますので、どっちがいいのかは難しいですが、うまく共存していかなけれ

ばいけないと思っています。地元も含めて首都圏や札幌に町の物産品や農産物を紹介したり、物産展に参加したりということも増やしていかなければいけないのかなと思いますので、町の方でもそういった支援や旅費の補助なり、いろいろな面で協力していただければいいなと思います。

◆意見⑥：一昨年、6月に小規模企業の振興基本法が施行されたということもあって、その法律をベースにいろいろな小規模企業の振興策が、今出ようとしています。地方自治体、訓子府などの町も含めて、条例を制定しなければいけないという法律になっていますので、商工会としても当然、昨年12月に町の方への予算要求の際に、そういった要請はしていますが、これからも道の条例を見ながら、また改めて要請をしていきたいと考えています。町は議会や関係機関とも連携を取りながら、総合的に将来も含めた条例を作っていただきたいと思います。

回答 (工藤議員) : 今、新しく小規模企業の基本条例というのを自治体も含めて作っていかうと、作らなければいけないという動きがあつて、これは当然、必要になってくると考えていますし、そのことによって、単に理念条例ではなくて、その条例をもとにして訓子府の場合、商工業と農業がどうやって新たな産業を構築していくか、あるいは自然エネルギーをどうするかとかいろいろな問題がありますが、どういう起業をできるかということも含めて大事な出発点になるのかなど考えていますし、議会としても勉強して対処していかなければいけないと思っています。

◆質疑⑦：人口を増やしていくためには、これから若い人たちにどんどん子どもを作っていたらかなければいけないと思います

が、安心して分娩できるような、そういうことはどう考えていますか。他の地域では助産施設が随分と減ってきていますよね。

回答（河端議員）：訓子府の場合、北見が近いということもありまして、産科がなくなったことに対する危機感の声は今のところ聞いていませんが、訓子府は少子化対策でいえば、不妊治療費助成、妊婦健診にも手厚く補助していますし、そういう意味では、子どもを妊娠する前、欲しくてもできない方や、妊娠して出産、そして子育てを一連の施策の中でかなり進んでいる方だと思います。

◆質疑⑧：知人から、この辺に空き家がないだろうかという話を聞かれたんですが、よそから転入してきて、公営住宅には収入の関係で入れないと、それで空き家を借りたいんだけど、あまり古い住宅だと、という話でした。そういう意味では、公営住宅は空いてますよね。ただ、所得制限があって大きな会社に勤めているような方たちは、入る要件でないということを見ると、その辺の空き家対策、そういった所得がある人が転入してきてでも入れるような対応は、教員住宅も道の管轄ということで、空いても貸してもらえないということを日頃感じていたので、訓子府として住んでもらいたいというふうにいつも言っていますが、もう少し考えていただいた方がいいなと思ひまして。

回答（上原議長）：町は、昨年度から道に対して、道所有の住宅で空いているところを使わせてもらえないかという要求をしています。ホクレンの実証センター、そこでもすね研究で入ってくる人口増として捉えているんですが、住むところがないということで、うちの町としては、お話のように町営住宅については所得制限があるということではなかなか活用できないということです

が、一度それを外してしまうと、さらに広がりが出てしまうということもあって、今、道に対して道所有の住宅を使わせてほしいという形で進んでいます。この問題についてもこれからいろいろな形で政策的にも動き出さなければいけないという認識を行政側も持っているようです。

◆意見⑨：皆さんの質問や答弁を聞いていて、議員の皆さんは私たちの問題を身近に感じていただいているんだなと感じております。

訓子府の人口が減るということが言われています。農家戸数も減ってきたわけですけど、日本の農産物の自給率ももう少し上げるような施策があってもいいのではないかと思っています。他の町から訓子府に来て生活をしてもらうというような、若い者が働く場がないとですね。若い者が働く場がなければ、我々高齢者が後々、面倒を見てもらえたとしても訓子府の町はそれ以上は豊かにはなっていないのかなと思うんですが、そんなことも一つ胸にとめていただいて、議員活動に精を出していただきたいと思ひます。

司会（西山委員長）：一つずつの問題を自分たちで調べながら、行政に皆さんの声を届けていくことが議員の役割だと痛感しました。



1月27日(水)実施 【日ノ出地区ふれあいセンター】 22名出席

◆質疑①：訓子府町として空き家を解体する場合の助成とかは具体的にありますか。

【回答】(西森議員)：訓子府町として空き家対策で、助成については、リフォームしたい方には最大300万円くらいの助成をするという決めはありますが、実際に壊して撤去するということには、今のところないです。

【補足】「空き家活用定住対策補助金」

空き家バンクを活用した売買・賃貸等に対し、空き家購入・改修および賃貸物件の入居者が行うリフォームに要する費用として最大300万円を助成

◆質疑②：各実践会・町内会の老人クラブがあると思いますが、その人数はだんだん減ってきていると聞いていますが、そういう傾向にあることは把握していますか。各単位老人クラブに任せきりでなくて、議員として何かやることがあると思うのです。

【回答】(河端議員)：高齢化率については、65歳以上35%(H26年度末)ということで、人口にすると約5,300人のうち約1,880人です。

また町内会・実践会で老人クラブがありますが、やはり加入率が少ない、そしてだんだん高齢化して若い人が入ってこない、それほどこの町内会も同じ問題を抱えているようです。老人クラブの方にお話しを伺ったときも、それが一番問題であるということでした。それは、自分たち単位老人クラブではどうにもならない部分もあるので、もう少し呼びかけもしてほしいという要望もありました。

◆意見③：私は、訓子府町の若がえり学級に60歳から入って、もう10何年たちま

す。部活動がたくさんあって、民謡・踊り・ストレッチ・お華とかあります。各地区の老人クラブに入っている皆さんもたくさんいます。平均年齢も上がって人数も減ってきていますが、そこに入れば、部活動がたくさんあり、踊りも先生が来て指導してくれますので、自分の身に付くし、老人クラブに入っても、みんなとそういうのをできるんじゃないかと思います。

(山田議員)：今、おっしゃられたのは、個人個人で楽しみを見つけて高めるという部分だと思います。それは、社会教育と言って、公民館の活動の一つですが、やはり今聞いていて、社会教育も地域に出払って、遊び方を皆と一緒に学ぶということも必要なのかなというのが一つです。それと、「足」の確保だと思うんです。先日、総文で老人クラブ連合会役員の方と会合を持ったときに、出たくても「足」がないと。その部分には町も、難しいとは思いますが、「足」の確保を皆で知恵を出し合うということが大事ではないかと思います。

◆質疑④：人口減少はおのずと来ます。議員の皆さんはいろいろと他の行政を見に行き勉強してきていると思うんですが、その見に行った中での感想とか、その中でちょっと工夫すれば訓子府でも合うようなことがあればお聞かせください。

【回答】(上原議長)：非常に大きな問題だと思うんですが、基本的にはここで住んでみたいとか、訓子府に働きに来ている人の中には訓子府で子育てしてみたいという声もあり、そういう人たちが本当に訓子府に住んで、子育てをできるようなシステムを作ると、当然、若い世代ですから長く町内で生活するのかなと期待しています。また昨年、新規就農した方がいます。若い二人が定住して頑張っていくということなんですが、そういう若者の親が訓子府に来て住むとい

うことで、両方の親が、一年中じゃなくても時期的に訓子府に住みたいという声があります。

住宅の確保というのが一番大きな課題になるんですね。そのへんに耳を傾け、きちんと体制を整えていくということが、今我々が課せられている大きな問題かと思っています。

司会 (西山委員長) : 東川町は北海道で唯一人口が増えているところなんですけど、そこがやっていることは、町長が他町に先駆けて戦略を練っています。町政の行方というのが人口増につながっていくのかなと私たちも実感しています。私たちも、道外へも研修で行けることになったので、そのへんも他市町村を研究してみたいと思います。



◆**質疑⑤** : 居武士小学校の話が出ていましたから、川村議員にお聞きしますが、川村議員個人としては居武士小学校を閉鎖して訓子府と統合すべきだと思っているんですか。

回答 (川村議員) : 私は思っています。

◆**質疑⑥** : そういう考えの人は、議会でも何人かいるんですか。

回答 (川村議員) : 誰ともそんな話をしたことはないですから、わかりません。私個人としての考えですから。

◆**質疑⑦** : それは何を根拠にして言うんですか。

回答 (川村議員) : いろいろとお金がかかって。私が19年に当選したときに、保育所が

統合になったんです。保育所が統合になって、小学校が複式で十何人で、今年度はいるけれども昨年度は入学生がゼロだったということですから。

◆**質疑⑧** : 高齢化に伴って、訓子府を離れるという人がいると思うんです。そのときに、墓地を持っている人はどうするんだと、そこで共同墓地を建設した方がいいのではという、そんな記事を見ましたが。

居武士小学校に町営としてスケートリンクが運営されています。昨年は11月末に大雪が降ったのに、なぜリンクを造らないのか。雪が降らないとリンクは造れませんから。今までオープンは12月1日だったと思うんですけど、それが15日になった経緯は。

司会 (西山委員長) : リンクについては、ここで即答できませんので、担当者に確認して、後日、議会だよりの臨時号でお答えします。

【確認の結果】 例年、グラウンドの凍結状態や降雪の状況を見ながら、12月上旬より整備、中旬にオープンとなっています。

今季においては、11月の大雪による影響で地盤の凍結が足りず、踏み固めることができない状況と、さらに12月中旬の暖気によりリンク造りの作業に着手できず、12月21日のオープンになりました。

回答 (工藤議員) : 12月議会で共同墓というものを何とかしてほしいと、そういう時期、時代にきているのではないかということで質問しました。

一つには、お墓を持っていても子どもたちも遠くに行ってしまって、自分のお墓の掃除もできない、草刈りもできない、これからどうなるんだという心配をする人。今、実際にお墓もなく、自分も高齢になっていてこれからどうするのか。共同墓でやってはどうかという声もあり、訓子府として

そういったことを検討する時期に来ているのではないかと質問しました。

町の考えとしては、すぐは難しいと、それは信仰、檀家としてのお寺との関係がある人もいますし、まったくお墓を持たない人にしても自分なりに気持ちの整理もつかないところを整理しなければいけないこともあるので、この問題は少し時間がかかっても、慎重に進めていきたいと。共同墓と併せて、無縁仏の供養を穂波の墓地でしているんですが、その無縁仏のところも今非常に狭くなって、古くなっています。それを管理しているのは町内会の方々ですが、そこもいずれ改築しなければいけない、新しい形にしていきたいという、その移転も含めて考えると、そのときに共同墓と無縁仏と一緒に検討していくという方向になっています。

◆質疑⑨：居武士小学校について、児童数が少なくなってきたということで、保護者の中でも不安を持つ人が出てきました。それで、保護者の間で「居武士小学校の地域、環境を考える会」という意見交換会が行われています。皆さん、それぞれ意見はお持ちです。居武士小学校の教育というのは、子どもや保護者、地域の人たち、そして行政も一緒に育んで、考えていかなければいけないことではないかなと思うんです。

子どもたちが「寂しい」とか「友達が欲しい」と言っているのも現実です。それを悲しいなと思い見ている親というのもあります。

(山田議員)：居武士小学校というのは、伝統もありますし、訓子府で最初にできた小学校であります。地域の皆さんも大切にしていますし、多くの実績を上げてきた学校です。ご存知のように、教育委員会も相当、居武士小学校に力を入れてきました。

小さくて良いところもたくさんあります。

先生が1人の子どもに関わる時間が多いとか、子どもたちが重たい責任を持っていろいろな役割を果たすとか、いろいろな良いこともあります。やはり欠けてくることも同時にあります。

例えば訓子府小学校のスクールバンドに参加してみたいと思う子どもがもしいたとしたら、参加できませんよね。これが欠けることのほんの一例です。この欠けているところが問題なんです。やはり子どもたちに、同じ教育、訓子府に同じように住んでいけば、同じ教育をしてもらいたいという思いが私にはあります。

ただ、開校100年という大きな節目がありますから、この居武士小学校の歴史に感謝して、皆で盛大に祝うことが目前にありますから、このことを町を挙げてやらなければいけない。地域の方に任せるといって町の姿勢では大きなことはできないと思います。皆で考えなければ、行政も住民の皆さんも議会も、皆で考えて、何が子どもたちに平等な教育を保障できるのかというこの1点に絞って、開校100年を祝った後に、皆で検討していくということ。このことが、子どもたちの長い未来に大きな役割を果たしていくと、私は信じています。

◆質疑⑩：昨年、無投票で新人として議員になられた方もいますが、選挙がなく聞けなかったのが、新人の方は、町をどうしたくて議員に立候補したのか。次の選挙のときにも無投票とかになる可能性もあるんですけれども、それに対する議会としての考えを最後に議長にまとめてお聞きしたいんですけれども。

(堤議員)：認定こども園建設に対する情報が私たちの耳元には届いてこなかった。理解を町民に求めるという行政のやり方について不十分ではないかと、まずそういう大事なものに対する取り組みに対して疑問が

あったということと、お世話になった訓子府に返せる形はないかとの考えで立候補させてもらいました。

(須河議員)：やはり今問題になっています人口減ですね。農業をやっている中で、町が本当に疲弊していつてしまう状況を見て、自分たちの子どもたちが本当にももの買えないような状況、一時は長靴も買えないような町になったというのが実際でした。今のところは農業を中心に、町の再生は原則的には自らの産業を創生していくということが、行政を通じてできないものかということを考えて、何とか町のために力を出して、農業を中心に力を出していきたいなと思ったところです。

(山田議員)：私は、まちづくりの基本は人だと思っています。人と言うのは町民の皆さんです。これに尽きます。町民の赤ちゃんが生まれて、お父さん・お母さんの愛情に育まれて、義務教育、そして高校へと進んでいく、この「人の育ち」のところに关わる視点を持って議員活動をしていきたいと思っております。人を大事にする視点をなくさないように、まちづくりを行政と議会と、もちろん町民の皆さんとやっていくべきだと思っています。

(西森議員)：今はどこの町も人口減少で悩んでいます、訓子府ほどいい町は北海道の中でもないなど。冬は非常に寒いですが、夏は暑く、作物もなんでも採れる。野菜から一般作物から玉ネギからメロンからなんでも採れるところだということです。町営牧場がありまして、あそこに観光を取り入れる。都会の人を寄せて、レストランとかを作ってやっているという市町村もあるので、それが成功するかどうかわかりませんが、やはりそういう挑戦をしていく若者に対して、議会も町も一丸となって応援したいなど、その一翼を担えればなと思っています。

回答(上原議長)：次の議会に対してどうするのかということですので、一言だけ、私は町長選も議員選も選挙があるべきだと、出る側としては非常に厳しいです。でも、選ぶという環境をつくっていくという、皆さんの権利を行使してもらえることが大事だと思います。ぜひ次の3年後には、皆さんそれぞれ自分の思いを前に出して、そして戦っていける環境づくりをしていければというふうに、私自身はそれを願っていますし、そういう思いを強く持っています。

懇談会のお礼

昨年の5月から新たな議員構成となり、町民の皆さんの声を直接お聞きして、これからの議会活動に生かすため、今年度は「町民の皆さんと議員との懇談会」を開催しました。

懇談会当日は、厳しい冷え込みにも関わらず、多くの町民の方々のご出席をいただき、厚くお礼申し上げます。

皆さまからいただいたご意見やご提言などについては、今後の議会活動の中で十分に議論を行い、町政に意見反映していけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

誠にありがとうございました。

訓子府町議会
議長 上原 豊茂

